

# 新 秋 剣 連

発行  
秋田県剣道連盟  
〒010-0914  
秋田市保戸野千代田町 14-12  
SAKAEビル 2F-B  
TEL 018-883-0680  
FAX 018-883-0663  
E-mail a-kendo@abellia.ocn.ne.jp  
http://akitakenren.com/

## 全国制覇「ねんりんピック秋田2017」 第30回全国健康福祉祭あきた大会 剣道交流大会 平成29年9月9日(土)～11日(月) 由利本荘市総合体育館



### 一丸となった勝利

平元 誠

「面あり」と片手半面を打った瞬間、画像が止まったような錯覚を感じた。観衆が「わあー」との歓声後、主審の「勝負あり」の宣告を耳にし、「勝った、優勝できた、これで試合が終わった。」

た。」平静を装いながら選手席へ戻ると監督、チームのみんなが満面の笑みで迎えてくれた。決勝は対山口県で四対一で勝ち優勝することができた。互いに抱き合い喜びを分かち合った。「えがった、えがった」の声に天を仰ぎ大きく息を吐きながら汗を拭いた。大会は地元の利はあるもの、選手、大将としての重責を終えると、一度に肩が下りたような、一気に力が抜け縛りから解けた思いであった。

準決勝の直前選手交代を告げられた。これまで奮闘されここの一番に勝負強く、試合巧者の木内直幹選手との交代に、果たして自分が大将として務まるか、これまで充分な稽古をしてきたのか自問自答した。しかし、やらねばとつぶされそうなの自分を奮い立たせ、葛藤しながら試合に臨んだ。

強化指導の先生方のお陰で稽古が楽しくなっていた。五月に選手を決定し選手登録することになった。その矢先四月はじめ地元で稽古する機会があり、準備運動もそこそこに稽古をした。稽古の最中面に飛び込んできたところ、左脚のアキレス腱に針で刺されたような激痛が走り、アキレス腱の断裂を心配し止めた。帰宅後腰も伸ばせない状況となった。その後通院の度に回復しつつあるとの診断であるが、なかなか稽古の許可が下りず、歯がゆい気持ちになるばかりであった。

八月に入ってから通院で、まだ稽古できないものか医師に懇願すると、治療も四ヶ月になりアキレス腱の透視画像を撮って判断することになった。画像の診断結果から稽古しても良いかなとの許可がやっと下りた。週末早速恐る恐る稽古してみた。心地よい汗が全身から流れ気分爽快で、稽古する幸せを感じ嬉しかった。これまで強化練習へ参加しても、みんな稽古しているのに自分は見学しているだけで、本当に申し訳ない気持ちであり、羨ましくも思っていた。

強化担当から監督か控え選手か、選択を問われ迷った末に選手を選んだ。県三チームのメンバー発表があり、自分はAチームの控え選手とのこと。不本意ながらも現状から納得した。しかし稽古不足なのに、もし選手交代になれば試合できるのか、甚だ不安でたまらなかった。大会まであと一ヶ月、技術は一朝一夕に向い上るわけもなく生殺しの状況が続いた。焦りも大きく少しでも挽回しようとして、一日二回の稽古を自分に課したときもあった。

まさか準決勝で交代するとは思っ

ていなかった。準備運動もそこそこ素振りも簡単に済ませ試合の準備をした。中堅の小松晃選手が試合中に左脚を負傷する事態が発生、しかし心配をよそに痛みを押し果敢に面へ跳び勝利し、とても感動を与えてくれた。よし自分もと勇んで試合へ臨んだが、気持だけが空回りし試合の流れや状況を把握せず一人相撲をしていた。あっさり面を取られ、焦って返そうとしてまた面を取られ負けてしまった。「あっ、チームが負けてしまったのでは」と頭をよぎり、全身凍りつく思いであった。申し訳ない気持ちで選手席に戻ると二対二の本数勝ちだと監督に言われ、命拾いだした思いで胸をなで下ろした熊本戦だった。全国大会規模で武者震いするほど緊迫した試合は、和歌山国体以来四十数年ぶりで勝負感も忘れていた。



嬉しく厚意を受け止め、必勝を胸に秘め明日に備えた。

強化選手の大半が身体のどこかしらに痛み、満身創痍で地元開催や自身のため、強い決意で大会へ臨んでいることが強く感じられた。

秋田県Aチームが優勝することができたのは、ねんりんピック担当として、対外的な業務で繁忙のなか、高橋勝吾、吉田雅宏両先生が大会まで強化選手のため、微に入り細に入り配慮くださり、用意周到な計画と準備、小松誠、鎌田耕平両先生から切り返しやすり足など基本動作の大切さ、攻めて打つ技の成否や有効性を徹頭徹尾基本動作をご指導していただいた成果である。そして強化選手の切磋琢磨と厳しい稽古を通して

育まれた結束力、お世話くださった方々、秋田県剣道連盟の後援など、県の一丸となった勝利であると思われる。また、Aチームのメンバーで先鋒で果敢に攻めチームに勇気と勢いをつけてくれた後藤稔選手、試合巧者でポイントゲッターの次鋒伊藤忠善選手、不屈の闘志で勝負を決める中堅小松晃選手、粘り強く冷静に勝負できる副将小松幸円選手、豪快な剣道をする佐々木寛選手、百戦錬磨で勝負強く頼れる大将木内直幹選手、温厚で沉着冷静な菅原孝雄監督、世話役に徹してくれた佐々木圭子主務、有能な方々に恵まれ、素晴らしき試合を展開し、優勝に導く活躍をされた選手、お世話くださった関係の皆様からお礼を申し上げます。

大会終了後、強化選手の多くが異口同音に、今後もみんなが集まり、稽古会や親睦会も続けようという気運が高まり開催が決まった。このねんりんピックを通して思いがけない貴重な経験と大きな財産、掛け替えない剣友、たくさん思い出、剣道の楽しさを得ることができた。これを契機に学んだことを生かし、交剣知愛を図り幼少年育成を第一に、微力ながら地域へ寄与できるように、生涯剣道、生涯稽古をめざし、これからも精進し楽しい剣道を後進へ伝えていきたい。

## ねんりんピックに出場して

小松 晃

このたび第三〇回全国健康福祉祭秋田大会に出場させていただき悲願であった「地元優勝」日本一という感動を本県代表の選手の一人として達成できましたことは生涯の喜びであり私の人生の宝となりました。謹んで秋田県剣道連盟、強化スタッフの先生方をはじめとし出会った強化選手の皆様に心から感謝申しあげます。

本大会に向けて秋田県チームは選抜された強化指定選手二十八名で一年前より毎月三回ほどの合同練習をしてまいりました。「優勝」を目標に県勢は小松誠先生、鎌田耕平先生のお二人の厳しいながらも温かい御指導のもと稽古を重ねてきましたが無理がたたって足腰を痛める選手も続出しました。こうした中皆さん歯をくいしばって頑張ってきました。この稽古の中で、私が一番驚いたのは大将の部「七〇歳以上」の指定選手が頑張りでした。失礼ですが私よりはるかに高齢なのにもかかわらず大きな声を出して頑張っている姿は今でも忘れられません。大会も近づきよいよABC各チームの選手の発表。私はAチームの交代選手として登録されました。Aチームの選手は過去の実績からみても優勝に一番近いチームでしたが私も五名の選手のサポートをしながらいつでも出場出来る様稽古に励んでまいりました。

大会一日目予選リーグが始まりました。第一試合は高知県チームとの対戦でしたが試合後に佐々木寛先生が体調不良を訴え私と交代。突然の事でしたのでそれがかえってよかったのか何のプレッシャーもなく試合をする事が出来ました。二試合目の京都府戦もチームは勝利し二日目の決勝トーナメントに残る事が出来ました。過去にねりんピック大会に出場した事のある先生が「ねりんピックの各県の代表選手は観光目的で来ているので実力はたいした事はないよ。」と言っておられました、いざ自分で戦ってみるとなんと皆さん強く強者ぞろいでした。

そしていよいよ二日目新潟県、広島市に勝利し準決勝熊本市との対戦。熊本の選手はさがらずどんどん積極

的に攻めてくる選手が多く大変な試合でしたが大接戦の末勝利する事が出来ました。いよいよ決勝戦相手は強豪山口県私も足を負傷してましたが選手皆満身創痍で頑張りそして勝利。選手皆が集まって俺達「日本の年寄りだな。」と言いながら肩をたたきあった事が今でも心に残っております。優勝できたのはチームの絆が強かったからだと思っております。この体験を基に「生涯剣道」を旨として稽古に励んでいきたいと思っております。

終りに大会運営に当って陰ながら大変ご苦労をなされた吉田雅宏先生、高橋勝吾先生の両先生に心より感謝したいと思います。本場にありがとうございました。

## 東北高校女子剣道選手権大会 団体優勝・個人優勝

秋田商業高校剣道部女子主将 羽生 遥

私は秋田商業高校に入学し、「全国制覇」という目標に向かって三年間日々の稽古に打ち込んできました。一・二年生の時は先輩方のおかげでインターハイに出場することが出来ましたが、私たちの代には準決勝で私が代表決定戦で負けてしまいインターハイへの出場権を逃してしまいました。自分のせいで負けてしまったという思いが強く、悔しくて涙が止まりませんでした。しかし今まで

ともに一つの目標に向かって頑張ってきた仲間たちや、監督の先生、御父兄の方々が優しく声をかけてくれました。そのおかげで立ち直ることができ、東北大会では意地でも個人団体ともに優勝し、お世話になった方々に恩返しをしたいと強く思うようになりました。そして東北大会に向けてチームの絆がより一層強まり東北大会では強豪校にも勝つことができ、決勝戦へと進むことが出来ま



した。決勝では絶対に優勝するといふ強い気持ちで一人一人が持ち、自信を持って試合に臨むことができ、その結果優勝することが出来ました。個人戦でも仲間たちの声援を受け、緊張せず集中して試合することができ、個人団体優勝という目標を達成することができました。

インターハイには出場することができませんでしたが、仲間たちと共に全国制覇に向かって切磋琢磨してきた日々は私にとつて決して無駄ではありませんでした。このように東北制覇を成し遂げることができたのは自分一人の実力だけではなく指導してくださった先生方、仲間たち、最後まで応援してくださった御父兄の方々や先輩方、そしていつも近くで見守ってくれていた家族のおかげだと思えます。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。これからは一緒に頑張ってきた仲間とはそれぞれ別々の進路に進むわけですが、日々向上心を忘れずに努力してきたことは私の一生の宝物です。この経験を今後の自分の人生の糧として更に自分を磨き、精進していきたいと思えます。

# 恩師を語る

剣道教士七段

吉田 雅宏

## 秋田南中・剣道部創部と 村上幸次先生



村上先生は、秋田市中通に「耳鼻咽喉科医院」を開業しておられ、市剣道連盟顧問として、少年剣道指導に熱心に取り組まれた先生です。

戦後、有志の中心となって中通小学校や秋田南中学校に剣道部を創られその指導に尽力されました。当時指導を受けた南中剣道部一期生としてその思い出について述べたいと思います。

昭和三十四年、私が中学三年の春のこと、「秋田南中学校に剣道部を創りたいが入部希望者はいないか」との話が学校中に広まった。但し、部の新設には必至条件があった。「各学年に希望者がいること」「部員数が団体戦の組める人数以上であること」の二つだった。

生徒間の勧誘の中心にいたのが友人の平野君（剣道具店の息子）で、「三年生の部活は七月の市中総体までの四ヶ月間だけなんだけど、入部者がいない」なんとか入ってくれないかとの必死の勧誘に、好奇心と少しの

義侠心も手伝って「よし手伝う」と引き受けたのが私の剣道との付き合いの始まりだった。

そのときの指導責任者が村上先生で、病院の休診日を利用し練習を見てくれて、前回与えた「宿題」をどこまで出来るようになったか到達具合をチェックし、個人個人に次までの課題を与えてくれた。普段の指導は平野武道具店職人の渡邊さん（秋商高剣道部OB）で、厳しかったが、初めて体験する運動は物珍しさも手伝って少しも苦にならなかった。

私の目から見た村上先生のイメージは、「優しいおじいさん先生」、「いいぞ・いいぞ」とホメラレルのがうれしくて、先生が来てくれる日が待ち遠しかった。先生のモットーが「子供や初心者は褒めて伸ばす」だったようで、いいところを探して褒めて自信を持たせ、褒められることへの競争心を煽って「剣道が好き」の気持ちを起こさせようしたのかもしれない。技術の良いところは勿論だが、褒めるところをよく探せるものだと思うくらい徹底して褒めるのだった。私の記憶からその褒め方の例を挙げると次のようなものがある。

○発声で構えが崩れても崩れに触れず「今日だけよりも一番声だしが元気だった」とか  
○足の運び方がばらばらでも「袴の着け方がよかったので裾を踏まなかった」とか

○果てには名前を呼ばれたときの返事がいいとか、汗拭き手ぬぐいがしつかり洗濯されてるとか、床屋に

行った坊主頭のかっこうがいいとか、顔色がいいとか、剣道と関係があるのかないのか、でも、褒められれば誰でもうれしいものだ。剣道そのものを見たこともない私は、ただただ他人の褒められた処をまねようと努力する日々であった。

部活の練習は、中庭の空き地の石を拾って専用の場所を作ることから始まったが、竹刀を持つての練習は四月末からだった。初めて買ってもらった自分の竹刀を持ち、プール脇で散る桜の花びらを「桜返し」など小次郎気取りで追いかけ廻した記憶が懐かしくよみがえる。裸足になって床の上での練習は、階段のおどり場とか体育館器具室の空きスペースとかを探し回って確保した。六月上旬剣道具の着け方を習い、試合練習は日曜日に築山小学校の体育館を貸してもらった。とにかく七月までには、後輩のためにも存続条件を満たすために試合が出来るようになるねばならなかった。今にして思い返せば、とんでもないスケジュール、指導する先生方は、まるで「お湯をかけて即席麵を作る」ようなせわしない思いだったに違いない。しかし当時の私にとっては、次から次へと新しいことを体験できるそのスピード感が楽しかった。

ともかくにも先生たちの綿密な指導計画と、村上先生の呆れるほどの、ほめて伸ばす指導の下で、初体験から三ヵ月半後の七月、まがりなりにも試合を終えて後輩たちに剣道部をバトンタッチできた。

創部期の状況と先生のご指導を思い返し、そこには幼少年、特に初心者指導のお手本とも言えるご指導があったことを痛感させられる。「剣道の面白さ、やればやるほどうまくなれるという自信と、剣道が好きなき気持ちを与える」この原点に最初に触れられたことが、今日まで剣道を続けてこられたことに繋がっていると思われ感謝の気持ちでいっぱいである。



昭和三十六年「秋田国体選手控え室」中央一般大將本田先生と談笑する村上先生(左端)  
右端は足の治療をする副将奥山先生、後ろの白いズボンは秋高部長の山谷先生

# 武道必修化対策委員会の活動から

小林 俊夫

堅いイメージのある武道だが、それを覆すような楽しい剣道体験教室が仁賀保中学校と由利中学校で行われた。この体験教室は武道必修化対策委員会の呼びかけに、他種目の武道も体験させたいと賛同した両校が応える形で実現した。紙面の関係から前段で仁賀保中剣道体験教室の様子を、後段では十一月一日に鳥海中学校で開催された剣道公開授業研究会の様子を報告する。

対象生徒は中学二年生一〇一名。この日、指導を務めたのは、全剣連が剣道授業協力者として認定した三名。現在、県内では授業協力者として登録されているのは五十三名である。いずれも毎年、実施される講習会等で指導内容や支援の仕方について磨きをかけている方々である。指導時間は二コマ連続の九〇分。初めに、模擬刀、木刀、竹刀で剣道の歴史や剣道の特性について学んだ後、立礼、座礼、蹲踞を実技で学んだ。その後、剣道の基本動作である、竹刀の持ち方、足さばき、基本打突へと進んだ。仕上げは、音楽に合わせて、仲間と協力しながら面や小手を打突



する段階へとレベルアップした。音楽のリズムで打つタイミングとコツを掴んだ生徒たちは、楽しそうに剣道を存分に体験した。生徒からは「ペアとして協力して頑張ることができた」「音楽に合わせて楽しく剣道を体験することができた」「また、機会があったらやってみよう」との声に代表されるように大好評であった。アンケートでも九割を超える生徒が「楽しく活動することができた」「安全に活動することができた」と高評価であった。

り簡易竹刀)である。材料費は一本当たり四〇〇円。学校では、原材料費から捻出すれば四〇本揃えても一六〇〇〇円と経費捻出の可能範囲である。何よりも竹刀や木刀よりは安価で安全、衛生的である。この「いたくシナイ」には剣道具や竹刀等が未整備で剣道授業を導入したくても実現できないでいる学校の扉を拓く起爆剤として期待が高まる。



内で相互評価するという内容である。しかも最後の演武技は、自信のある技を設定するという約束である。当然、演武する技の順番が班ごとに異なる。この度、授業を公開してくれたのは鳥海中学校の一年生である。鳥海中では平成十一年の統合中学校開校時に武道場と剣道具等が整備された。剣道具を着用した授業も可能であったが、今回、敢えて、前述の「いたくシナイ」を用いた検証授業に協力いただいた。結論からいうと十分可能で、準備や後始末等に時間を要しない分、学習のまとめ、振り返りの時間が確保できるといううれしい副産物まで生まれた。技能に偏りがちな指導目標だが、本時は既習の

古風な尺八の音に合わせ、各班の活動が始まった。剣道授業も大詰め、九時間目である。本時の概要は、これまで学習してきた礼法や基本動作、基本となる技を組み合わせ、尺八の音に合わせ、演武し、その演武を班



知識理解と興味関心を駆使し、「思考・判断」の観点としてもよい指導内容であった。また、①仲間と関わる楽しさ ②認められる楽しさ ③役割を果たす楽しさ等 ④工夫する楽しさ ⑤自己決定する楽しさ等工夫とアクティブラーニングを柱にした楽しい授業であった。

授業後の研究協議では、参加者から質問や貴重な意見が多くあった。全剣連派遣視察員として指導いただいた全剣連普及委員会学校教育部会委員 竹原勝博氏からは「残心に関連して「生徒の心に残る剣道授業の展開」という点も含め、授業協力者として授業に関わる際の貴重な指導をいただいた。



表1 剣道体験教室アンケート集計結果

	高	←	→	低
	4	3	2	1
Q1 楽しく活動することができた。	149	14	3	1
	89.2%	8.4%	1.8%	0.6%
Q2 もう少し剣道を体験したい。	85	70	10	2
	50.9%	41.9%	6.0%	1.2%
Q3 音楽に合わせてやさしく打つことができた。	100	69	7	1
	56.5%	39.0%	4.0%	0.6%
Q4 安全に活動することができた。	155	11	0	1
	92.8%	6.6%	0.0%	0.6%
Q5 仲間と協力しながら活動できた。	158	8	0	1
	94.6%	4.8%	0.0%	0.6%

N中 101名 Y中 1年33名 2年33名 計167名の集計

シリーズ道場紹介 第十回

飯田川剣道スポーツ少年団



毎週土曜日は昭和武道館で行っている地域のスポ少、中学生、高校生、一般が自由に参加する土曜稽古会で練習をしている。

●本団の歴史

昭和五十一年に近藤芳雄氏が、剣道の修練により幼少年の心身の鍛錬を目的とし少年剣道教室養心館道場を創設。昭和五十二年四月にスポーツ少年団へ加入し、剣道スポーツ少年団としての活動が始まり、昭和六十三年まで児玉建彦氏の情熱をもった指導で、湖童旗大会をはじめ各種大会で好成績を残した。平成十八年、全日本剣道連盟少年剣道教育奨励賞を受賞し、平成十九年二月に創立三十周年記念練成会を開催し、創立三十周年および奨励賞受賞祝賀会を挙行する。

●ここ十年間の団活動を振り返って

三十周年を祝った翌年、「剣道をやめたい」と、高学年団員が連鎖的に退団し低学年三人だけが残った。目指していたチームづくりをやっと手応えを感じた矢先のこと、自分の指導力不足を悔やんで一度は閉団を考えた。しかし、三人のがんばりに

●代表指導者 伊藤 強

●稽古場所

飯田川ふれあいスポーツ会館

潟上市飯田川和田妹川字岩崎八一四

●稽古日と時間

毎週火曜日、木曜日

(午後六時～午後八時)

引き寄せられたのか、団員が増え、少しずつ勝つ喜びを味わえるチームに育った。そして、平成二十三年湖竜旗大会では決勝で敗れたものの、円を組んで座って泣いている子どもたちの姿が誇らしく思えた。翌年には、二十四年ぶりとなる優勝を飾り、その後のさらなる盛り上がりを期待した。結果を出すことだけでは団員の確保につながらず、入団者がいない年が続く、ついには単独チームで大会へ出場することができなくなった。

剣道に触れる機会をつくりたいと思ひ、三年ほど前から団員といっしょに地元の保育園を訪れ、剣道教室を行っている。足じゃんけんによる剣道の足さばき、新聞切りやボール打ちなど、園児たちは興味を持って体験している。また、チャレンジデーで親子剣道教室を行うと、数組の参加があった。このような活動の効果も少しずつ現れてきたのか、現在、五年生のキャプテンを筆頭に三年生三人、二年生一人、一年生一人、園児二人の計八人の団員と、なわとびやラダーなど遊びを取り入れたメ

ニューで楽しく練習している。

「剣道やりたいです」。目をきらきらさせたちびっ子が、やつとまた道場に現れ始めた。やらされる剣道ではなく、自らやる剣道。これからも、それを応援できる指導を心がけ、だれもが気軽に剣道を学べる場所でありたいと思っている。

### ■望成会(県庁居合道同好会)

●師範または館長、経営者

会 長…岡本 金一

副会長…田口 隆信

幹事長…本田 邦俊

師範(指導者)…教士七段千田信治



教士七段大畑博正  
教士八段石田純士

### ●所在地、電話番号

所在地…秋田市山王五丁四一七  
電話番号…〇九〇一七七九六一  
一六〇四(石田純士)

### ●本道場の歴史

・望成会は、昭和五十六年に県庁内の職員のサークル活動の一環として居合道の同好の士が集まり「県庁居合道同好会」として活動を開始しました。設立当初は、当時の職員会館(現在の県警本部)の地下にあった体育館で稽古を行っておりました。その後、当時のスポーツ会館から現在の武道館へと稽古場所は替わりました。活動を行ってきております。

・また、現在は県庁職員・OBのみならず、参加を希望する県内の居合道の同好の士の参加も得て県内最大の会員数となっております。

・望成会の名前の由来は、御指導をいただいております二人の先生のお名前から頂戴しております。秋田県で居合道を普及・啓蒙された故浅利成和先生(居合道範士八段)の「成」と故望月松太郎先生(居合道教士七

段)の「望」からいただいて「望成会」としたものです。

### ●稽古日と時間

・稽古は県立武道館で行っており、時間は十八時～二十一時です。但し、指導者の先生方は他の稽古の指導も兼ねておりますので、事前に電話確認していただければ幸いです。

・火曜日…剣道場

・木曜日…トレーニングルーム

・金曜日…剣道場 です。

### ●稽古内容と指導要点

・稽古は、昇級・昇段試験に必要な実技としての「全剣連居合十二本」と古流の伝承を図るため「夢想神伝流と無双直伝英信流の二つの流派のうちいずれか」を稽古しています。

・指導は、初心者から高段者に至るまで、体の使い方や刀の操法の理論と実践を基本から懇切丁寧に指導を行っていきます。

### ●本道場の特色

・本県の居合道の最大の会員(三十名)を要し居合道普及等活動の中心的役割を担っています。また、県内の指導者のうち八段一名、七段三名、六段四名と指導陣も多数揃っています。

す。

●最近の主な試合成績

・東北居合道大会の選手

(県大会の優勝者と準優勝者)のうち

四段の部選手二名のうち一名

五段の部二名のうち二名

六段の部二名のうち二名

七段の部二名のうち一名が望成会  
員。

・全日本居合道大会の選手

五段・六段・七段の全員が望成会  
員。

会費・年会費は三千円です。



H30 秋剣連 稽古始め

七段審査会に臨んで



山田 朋子

去る四月三十日に  
京都市で行われた七

段審査会において合格することが  
できました。「七段合格」は、私の夢で  
あったので、合格した瞬間は信じら  
れませんでした。四歳で剣道を始め

てこれまで、私を指導してくださつ  
た沢山の先生方と仲間を思い出し、  
只々感謝の気持ちで胸がいっぱいで  
した。

今回の審査に臨むにあたり、私は  
毎週木曜日の県立武道館での稽古会  
や女子剣道の稽古会、またスポ少で

の子供達への指導を通して自分の剣  
道を見つめ直し、課題に取り組みま  
した。日々の生活に追われ稽古時間

の確保は大変難しく、稽古ができな  
い分、素振りや立合のビデオを見る  
などして、審査へのイメージを膨ら

ませました。私は打ちが軽いことが  
最大の課題であり、努力していまし  
たが、審査において男性相手に一本

となる打ち切った重い打ちが出せる  
か自信が持てずいました。そんな  
時、学生時代の恩師が「技が有効打

突であったかということよりも、そ  
の技を出すまでのプロセスが大事で  
ある」と言葉をかけてくださいまし

た。私はこの言葉を胸にとめ、技を  
出すまでの過程で相手に攻め勝つこ  
とができたか、又女性だからこそで

きる柔らかい技もあるのではないかと意識を変え、稽古に取り組みよう  
にしました。当日の立合は緊張のた  
めよく覚えていませんが、集中し、  
目指すべき機会が無意識に技が出た  
ような気がします。

今回合格することができ、私は稽  
古ができる場所があり仲間がいるこ  
とを本当に幸せなことだと実感しま  
した。いつも指導してくださる秋剣

連の先生方、遠藤律子先生をはじめ  
とする女子剣道の皆様、本当にあり  
がとうございました。又、七段審査

を受審するか悩んだときに「挑戦し  
なければだめだ」と強く背中を押し、  
協力してくれた家族にも感謝の気持

ちを伝えたいと思います。これから  
も七段に相應しい剣道ができるよう  
稽古を続け、少しでも秋田県女子剣

道に恩返しができるよう頑張ります。  
また、子供達に正しい剣道が伝えて  
いけるよう日々勉強し、工夫してい

きたいと思えます。これからもご指  
導よろしくお願ひいたします。

二十九年七段・六段・称号合格者

剣道七段

- 山田 朋子(秋田市) 京都・4月30日
- 佐々木 健(大仙市) 京都・4月30日
- 菅原 勇一(秋田市) 京都・4月30日
- 後藤 竜美(大仙市) 長野・8月19日
- 渡邊 壽男(秋田市) 長野・8月19日
- 浅野 厚(秋田市) 愛知・11月18日
- 杉山 喜幸(秋田市) 東京・11月27日
- 土田 真澄(由利本荘市) 東京・11月27日
- 中村 卓道(大仙市) 東京・11月28日

剣道六段

- 岡本 泰輔(由利本荘市) 長野・8月20日
- 安藤 謙(由利本荘市) 東京・11月25日
- 加藤 由佳(横手市) 東京・11月25日
- 金澤 英明(由利本荘市) 東京・11月25日
- 岩井川杏子(湯沢市) 東京・11月25日
- 鈴木 紀子(秋田市) 東京・11月25日
- 中田 武(秋田市) 東京・11月25日
- 沢田 武(秋田市) 東京・11月25日
- 渡会 満(潟上市) 東京・11月25日

剣道教士

- 加賀谷大輔(秋田市) 東京・11月27日
- 福士 省治(北秋田市) 東京・11月27日
- 東海林一義(湯沢市) 東京・11月27日

剣道錬士

- 鈴木 由克(潟上市) 東京・11月27日
- 嘉藤 英人(秋田市) 京都・5月6日
- 小池 一寿(秋田市) 京都・5月6日
- 佐々木 誠(秋田市) 京都・5月6日
- 桜庭 真人(大館市) 東京・11月27日
- 猿田 健一(秋田市) 東京・11月27日

居合道七段

- 畠山 文吾(鹿角市) 東京・11月18日

居合道六段

- 根本 暢幸(大仙市) 岐阜・6月23日
- 谷本 淳(大館市) 東京・11月18日

居合道教士

- 戸堀 義一(大潟村) 京都・5月3日

居合道錬士

- 大倉 慶人(北秋田市) 東京・11月27日

杖道六段

- 大畑 博正(秋田市) 東京・H29・1月13日

二十九年各賞受賞者

◎平成二十九年 全日本剣道連盟

「剣道有効賞」

菊地 弘志(秋田市剣道連盟顧問)

「少年剣道教育奨励賞」

象潟剣道スポーツ少年団

◎平成二十九年 秋田県剣道連盟

「幼少年指導奨励賞」

大館北秋剣道連盟：桂城少年剣友会

戸田 恒夫

由利本荘：にかほ剣道連盟：亀田剣道ス

スポーツ少年団

高野 均

秋田市剣道連盟：雄信館内山道場

佐々木 誠

二十八年各賞受賞者

◎平成二十八年 秋田県スポーツ賞

「功労賞」

佐々木 茂(元秋田県剣道連盟副会長)

◎平成二十八年 秋田県剣道連盟表彰

(功労賞・本田賞・小笠原賞・その他表彰)

「功労賞」 該当なし

「本田賞」

・全国高等学校定時制通信制体育大会

第[47]回剣道大会個人準優勝

照井 直樹(横手高校)

・第[11]回全日本都道府県対抗

少年剣道優勝大会(小学生の部)

団体ベスト8

監督 及川 正

選手 高島 慶太(雄信館内山道場)

三浦 育真(雄信館内山道場)

淡路航志朗(勝平道場)

熊谷心之介(協和剣道場)

東海林健太(勝平道場)

・第[51]回全国道場少年剣道大会

(小学生の部)

団体ベスト8 雄信館内山道場

監督 及川 正

選手 高島 慶太 菅原 陽菜

佐藤 悠月 岩澤 優翔

三浦 育真

「小笠原賞」 該当なし



# 全県個人二連覇、東北個人優勝!!

秋田市立飯島中 高橋 京太郎

僕が入学した時、飯島中学校の剣道部員は三年生が三名しかいませんでした。新人部員が僕を含めて四名、少数のため練習内容が限られることがありますが、その分、一年生から試合に出場することができました。普段は山崎義裕コーチの御指導のもと学校で練習に励み、他にも出身道場である修武館などいろいろな道場に出稽古に行き、多くの先生方からたくさんのお話を教えていただきました。

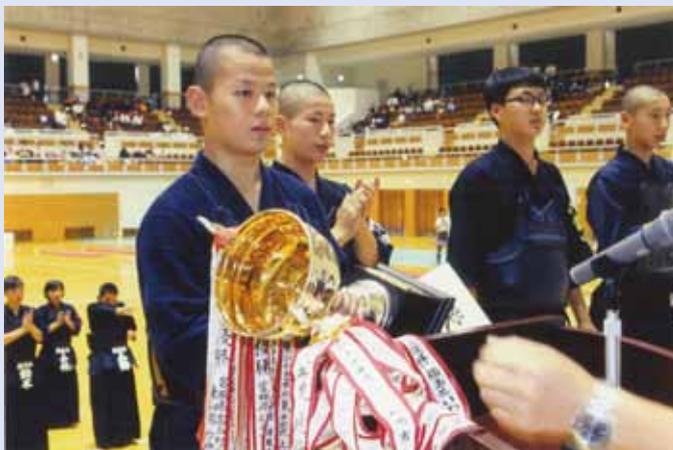
試合で強い先輩方と対戦する時は、負けて当然と思いついて、挑戦者としての気持ちで忘れず、とにかく必死に一本をとりに行きました。一試合一試合、悔いのないように行けることを全て出し切る覚悟で臨み、全県大会で個人優勝することができました。夢にも思っていなかった結果だったので、今でも信じられません。東北大会では体の大きな三年生と長い延長戦となりましたが、力を振りしぼって五位になることができました。全中では一回戦で敗退し、全国のレベルの高さを痛感しました。

その後、三年生の引退と仲間の転校でとうとう部員が三人になってしまいました。僕は目標を全県個人二連覇と決め、中総体に向けて課題を一つ一つクリアすることに努めました。技の精度を上げること、試合構成、当たり負けしない体作りなどです。一年間ほぼ休みなく課題に取り組んだ結果、僕は県大会二連覇を達成することができました。

東北大会は、初戦から苦しい戦いの連続でした。特に山形第六中学校の小松選手と対戦した決勝は、初太刀で一本をとられる苦しい展開でしたが、時間ぎりぎりにとり返し延長につなげました。長い延長戦になりましたが、絶対勝つという気持ちを強くもち、また地元秋田の会場の人達の声援にあとおしされ、最後に面を決めて優勝することができました。その後の全中では、一回戦で今大会準優勝の九州学院中学校・平尾選手と対戦しました。延長にもちこんだものの敗れてしまいました。全国へのトップ選手と戦えて大変勉強になりました。

このようにがんばってこれたのは、

指導して下さった先生方、応援して下さい下さった方達、一緒に稽古をしてくれた仲間のおかげです。これからも全県三連覇、東北二連覇、そして全国で結果を残すことを目標に掲げ、日々全力で練習をしていきます。



## 広報委員会からお知らせ

剣道人口の拡大を図るために各郡市で行われている大会の結果や、取り組みの状況をホームページに掲載していきたいと考えています。

情報がありましたら、記事の内容や写真などをFAX、できれば電子データで送ってください。

広報委員会ホームページ担当  
鹿子澤 浩美

(連絡先)  
E-mail: shukenren@gmail.com

## 編集後記

平成二十九年度は、中学校と高校の東北大会、東北総体、そして、ねりんびックと大きな大会が次々と秋田県で開催された年でした。各大会で活躍された選手皆さんの健闘を称えるとともに、役員として尽力された方々に感謝申し上げます。

剣道人口が減少する中、教育の場や各道場で面白い剣道を工夫し、剣道の普及に努めている先生方には本当に敬服いたします。今号を編集していて、剣道は少年から老年に至るまで、試合や昇段など、すべての世代に活躍の場があるのだということを再認識しました。

これからも、広報誌やホームページ等を通じて、この剣道の素晴らしさを広く伝えていきたいと考えています。

## 編集

秋田県剣道連盟広報委員会

芳谷 正人、石田 泰男

伊藤 隆、辻 文彦

鹿子澤浩美、筒井 洋美

岩船 志保